

さぎす橋かわうその話～酒井明 説話集12※～

宿毛というところは昔、野中兼山や殿様だった安東氏が、潮止めの堤をつくって町を守ったり、田圃をたくさんつくった所で、明治になってからは林有造先生がそれまで島だった片島に、堤防や道路をつけて陸続きにして、立派な港を持つ町にされました。

ほんのこの間まで四季折々なんともいえない風情をみせていた沼も、ほとんどが埋め立てられてしまいましたが、宿毛から沖新田に向かう、さぎす橋まで潮遊びの長い沼。そこに道路がつけられ、松の木などが風に吹かれながらも大きく育っていました。足元でマグモの姿やコロコロと鳴くバンの声、ヨシキリの声も聞かれ、イナもおればフナもすむ、そんな沼には色々面白い話がありました。

中でも、かわうその話は本当にやられた人もあって、魚を行商する人が夜道になって帰ってくると、突然後ろから飛びつかれ、はずみで沼に飛び込んだり、夜に沼辺りを通るのはご免だと断わる人もあった位です。

ある朝突然私のところに訪ねてこられた方は、昨夜は不思議なものに出会ったので、その正体が知りたくて聞きに来たというのです。

「急用で宇須々木まで車を急がせておった所、さぎす橋の向こうで突然黒いもんが伸びあがったと思うと沼の中にとび込んだ。何かと思うて車を止めて様子をうかがったが、これということもない。気味が悪くなって大急ぎで走りだしたが、そんなことする物いうたらなんじゃろう」と言うので

「そいつは間違いなしのかわうそで、それより他は考えられん」

ご本人も

「なる程いろいろ聞いたことはあるが、それにまちがいなからう」

と納得して帰られました。

そんなかわうそも特別天然記念物、めったにお目にかかることができなくなりました。自然の中で夢をはぐくむ様な話もだんだんすくなくなってきたようです。



※) 平成 26 年 3 月に逝去された宿毛市出身の酒井明さんは、長年教鞭をとる中で地域伝承や動植物の生態のフィールドワークを重ね、退職後も宿毛市文化財保護審議会（当時）長などを歴任、益々研究を深めながら観察日誌や説話、伝承技術などを膨大な手書き原稿にまとめられました。

ご遺族より宿毛歴史館に寄贈された原稿から、順次「酒井明説話集」として公開してまいります。